

## 産卵鶏を平飼いに変更した場合の変化と比較

研究者 生物サービス科 動物活用コース 青木新太 大矢響  
 指導者 下村亮也 田井利典 松枝明

### I はじめに

アニマルウェルフェアとは、動物福祉とも呼ばれ、動物が受けるストレスを軽減し、本来の行動が取れるよう、生活環境に配慮する考え方である。

### II 目的

立体飼いからアニマルウェルフェアに考慮した飼育に変更する場合に産卵鶏にどのような変化が起こるのかを調べるため。

### III 方法

①調査期間 令和7年5/23～10/17

②区の設定

立体ゲージ区：成鶏舎：面積約0.32 m<sup>2</sup>

平飼い区：平飼い鶏舎：面積約3.5 m<sup>2</sup>



図1 平飼い鶏舎の様子

③調査項目

卵重量

増体重

外見・行動変化

④供試動物

立体ケージ飼い：ボリスブラウン 3羽

飼料：ヘルシーシャイン

平飼い：ボリスブラウン 3羽

飼料：ヘルシーシャイン

飼料は両区同じものを与え、給餌量225gとした。

### IV 結果

〈卵重量〉

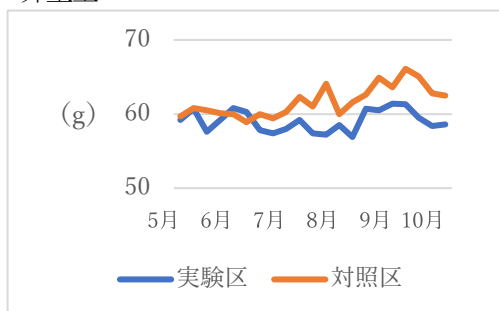


図2 卵重量平均

図1より開始時体重に差は無いが、実験区は5月後半に減少しその後一時的に増加した。全体的に実験区は対照区を上回ることなく50g台を維持した。

〈増体重〉

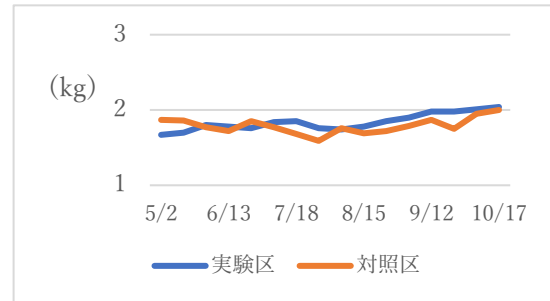


図3 体重平均

図3より開始時対照区が上回っていたが、6/6でほぼ同じになり、その後実験区が上回る結果となった。

〈外見・行動変化〉



1羽は極端に羽が抜けている個体があった。しかし、調査終盤ごろには首元の羽が戻っていたが、素囊部の羽は戻らなかった。行動は砂浴び、虫探し、巣作り、群行動等が徐々にみられるようになった。鶏を持った時に仲間を守ろうと手をついてくる行動が見られた。

### V 考察

〈卵重量〉

ケージ飼いを途中で変更し、なおかつ給餌量が同じである場合、平飼いの卵重量は減少することが分かった。餌のこぼしなどで摂取量が減少したためと考えられる。

〈増体重〉

平飼いに途中で変更しても体重はケージに比べ増加し、安定することが分かった。これは、ケージに比べ運動量が増しストレスも軽減したためと考えられる。

〈外見・行動変化〉

平飼いに変更した場合、砂浴びや群行動などをはじめとした鶏本来の行動を示し、外見は羽毛が新しく生えることが分かった。素囊部に羽が生えなかった理由として、他の鶏が気になりつついてしまったためと考えられる。

### VI 今後の課題

今回の研究では羽数が少なくより正確なデータが得られなかった。この研究を行う場合、羽数を増やして行いたい。今回制限給餌を採用したが、不断給餌の場合はどうなるのか研究したい。